

日本天文学会年会予稿原稿用紙

(記入にあたっては、月報本文および裏面を参照のこと)

分野

キーワード

発表形式 (該当するものに○)

- a. 口頭講演
- b. ポスター講演 (口頭有)
- c. ポスター講演 (口頭無)

切り取り可能

切り取り無効

	題名	<左詰め>
	氏名 (所属)	<左詰め>

講演者名 (漢字、
外国人はアルファベット)

姓 (ひらがな、外国人はアルファベット)

名 (ひらがな、外国人はアルファベット)

講演者所属 (大学名、組織名)

予稿集の時間割部分に使われます。
学部または同等の部局以下は不要です。
(例 広島大学、理化学研究所、宇宙航空研究開発機構)

会員種別 (該当するものに○)

正会員・準会員・非会員

会員番号

(該当するものに○)

一般 ・ 学生

連絡先

Phone :

F a x :

Email :

住 所 :

旅費の補助 学生正会員のみ

旅費補助希望 無 ・ 有

出発地 (希望者のみ)

記入例

日本天文学会年会予稿原稿用紙 (記入にあたっては、月報本文および裏面を参照のこと)

分野

キーワード

発表形式 (該当するものに○)

- a. 口頭講演
b. ポスター講演 (口頭有)
c. ポスター講演 (口頭無)

題名	大マゼラン雲の巨大ブラックホール候補天体の発見
氏名 (所属)	○天文学 (千種大理)、有松きん (熱田大工)、白鳥苑代 (徳川天文台)
<p>赤外線天文衛星 Infra Red Satellite Facility 2 (IRSF2)を用いて、大マゼラン雲の力学中心にブラックホール候補天体を発見したので報告する。IRSF2は口径14mの軌道望遠鏡プロジェクトであり、2020年末から既に3年あまり稼動中である。星形成領域、恒星、銀河、クエーサーのほか、突発天体 (超新星・新星・ガンマ線バーストなど) の赤外線観測においても活躍している。</p> <p>波長2 - 5 μ mにおいて、2022年の1夜と2023年の4夜、大マゼラン雲の力学中心に位置する奇妙な電波源 Men A*の領域を観測した。2022年9月の観測では、恒星と思われる天体が存在するだけだったが、2023年3月以降には2つの天体が15 mas 以上の間隔をあけて観測され、それぞれ正確な測光値が得られた。恒星と思われる天体には0.16等以上の変化がなく、他方の天体 (Men A*-IRと呼ぶ) は波長4 μ mで、1週間の間に4倍、17分の間に2倍にわたる増光を示した。</p> <p>Men A*-IRを基準にして他の18個の天体の固有運動が求まり、Men A*-IRの質量として太陽の$\sim 10^6$倍という値を得た。Men A*-IRは、K-L'カラーに換算して1.9等の赤いエネルギー分布SEDをしている。私たちは、これらの変光・固有運動・SEDに基づき、ブラックホールからの赤外線放射を検出したものと結論づけた。これによって、従来の定説とは全く逆に、大マゼラン雲にも力学中心に巨大ブラックホールが存在することが初めて明らかになった。</p>	

講演者名 (漢字、
外国人はアルファベット)

天文学

姓 (ひらがな、外国人はアルファベット)

てんもん

名 (ひらがな、外国人はアルファベット)

まなぶ

講演者所属 (大学名、組織名)

予稿集の時間割部分に使われます。
学部または同等の部局以下は不要です。
(例 広島大学、理化学研究所、宇宙航空研究開発機構)

千種大学

会員種別 (該当するものに○)

正会員 準会員 非会員

会員番号

(該当するものに○)

一般 学生

連絡先

Phone :

F a x :

Email :

住 所 : 〒181-8588

旅費の補助 学生正会員のみ

旅費補助希望 無 ④

出発地 (希望者のみ)